

2026 埼玉国際ジュニア柔道体重別選手権大会
2025-2028 国際柔道連盟試合審判規程の適用（申し合わせ事項）について

本大会は、中学生から大学生も参加することから、選手の安全性を最優先に考えこの申し合わせ事項を定める。

＜埼玉県柔道連盟初段審査禁止技を参考に＞

※絞め技、関節技は禁止とする。

※頸椎または脊髄を損傷する可能性のある行動については、「待て」とする。

＜2025-2028 国際柔道連盟試合審判規程主な変更点から＞

6 逆背負投(通称)

・カデ大会では認められず、「待て、指導」とする。

7 ユージングザヘッド(通称) ※頭部を使つての投技

・カデ大会では認められず、「待て、指導」とする。

8 ダイビング(通称) ※真正面・真後に飛び込む

・ユージングザヘッド(通称)は認められるが、従来通り内股、袖釣込腰等で真正面に飛び込む、あるいは肩車等で相手を担ぎ上げて真後ろに飛び込む行為は、ダイビング(通称)として「反則負け」が与えられる。

・ダイビング(通称)は、頭部と両肩が着地した場合とし、頭部と片方の肩が着いた場合はダイビング(通称)としない。

9 ヘッドディフェンス(通称) ※頭部を使つての防御

・カデ大会では認められず、「待て、指導」とする。

・ブリッジについては、従来通り「一本」と評価する。

12 組み方

- ・立ち姿勢において、相手の上衣の袖の中に指を入れて組手を取ることを認めるが、下履きの裾に指を入れて組手を取ると「指導」が与えられる
 - ・寝姿勢において、相手の袖・下履きの裾の中に指を入れることは認められる。
- 国際ルール通り

国内における「少年大会特別規程」から

- ・「両袖を持って技を施すこと」、「両膝を最初から同時に畳について背負投等を施すこと」について認める。

【その他】

- ・マウスピースの着用については、現行通り、白もしくは透明のもので、柔道衣コントロールの際に申請すれば可能である。
- ・選手の呼び出しコール、1 分間に 3 回の呼び出しで失格は適用しない。
- ・柔道衣の大きさ、帯の長さの適正な着用については、国際柔道試合審判規定に従うことに加え、埼玉県柔道連盟の判断とする。
- ・基本ゼッケンの着用は必須とするが、不備があった場合、臨機応変に対応する。